

税制上の優遇措置

個人様

所得税の控除

横浜国立大学基金へのご寄附は**所得控除**の対象です。そのうち「**学生修学支援基金**」及び「**研究等支援基金**」に対するご寄附は、確定申告の際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

住民税の控除

お住いの都道府県・市町村によっては、個人住民税の控除が受けられます。詳しくはお住まいの各自治体の税務担当へお問合せください。

相続税について

遺贈により取得された財産を相続税の申告期限に間に合うよう本学へご寄附をいただいた場合、その寄附金額には相続税が課税されません。

法人・団体様

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

ご寄附特典

ご寄附をいただいた皆様に感謝の気持ちを込めて、様々な特典をご用意しています。

寄附の特典		個人	法人・団体
創基 150周年 記念限定	創基150周年・開学75周年 記念銘銀 (ご寄附の累計金額) ^{※1} 教育文化ホール YNUミュージアム内にて ご芳名を掲示させていただきます	20万円以上	100万円以上
	オリジナル返礼品	1万円以上	-
高額 寄附者 銘銀 ^{※1※2}	銘銀(ゴールド)の掲示	1億円以上	1億円以上
	銘銀(シルバー)の掲示	1,000万円以上	5,000万円以上
	銘銀(グレー)の掲示	100万円以上	1,000万円以上
その他の 謝意	記念楯の贈呈 ^{※1※2}	500万円以上	1,000万円以上
	感謝状の贈呈 ^{※1}	30万円以上	100万円以上
	御礼状・WEBご芳名録への掲載 ^{※3}	ご寄附をいただいた全ての皆様	

※1: 原則として一個人または、一法人・団体につき1回までといたします。

※2: 高額寄附者銘銀及び記念楯の贈呈は、本学へのご寄附累計金額が該当金額に達し次ご案内いたします。

※3: ご芳名の公表を希望されない方につきましては、掲載いたしません。

横浜国立大学 卒業生・基金担当

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

TEL : 045-339-4443 / E-mail : ynu.kikin@ynu.ac.jp

横浜国立大学基金

<https://kikin.ynu.jp/>



横浜国立大学基金 2025年度活動報告書

YOKOHAMA NATIONAL
UNIVERSITY
FUND



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

横浜国立大学基金は 「学びたい」「挑戦したい」を応援します。

横浜国立大学基金は、大学憲章の基本理念に基づき、世界に貢献する高い志を持った学生や若手研究者の育成のため、皆さまからのご寄附をもとに様々な支援事業を行います。その支援は修学支援、研究支援、国際交流支援、共生社会の実現、施設・設備の充実化、課外活動支援など多岐にわたり、時代の移り変わりに応じて必要な事業に活用します。

一 横浜国立大学憲章

横浜国立大学は、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、一人一人の在り方を尊重し合う「多様性」を重んじ、世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言する。この理念を実現するために以下のことがらを長期の目標として定める。

実践性

諸問題の本質を見極め、時代の変化に対応し得る柔軟で創造的な課題解決能力を涵養する。現実の生きた社会に原点を置く学問を志向し、教育と研究の成果をもって社会の福祉と発展に貢献する。

先進性

教育、研究、社会貢献において、自由な発想と斬新な取り組みにより、社会の変化に柔軟に対応し、多様な学術知・実践知を活かして、先進的な研究を推進し、人類の知的発展に貢献する。

開放性

市民生活から地域、産業界、国、世界にまで至る幅広い視野を持ち、学生と教職員の主体的な社会参画により、教育、研究などすべての面で開かれた大学として社会に貢献する。

国際性

諸外国との交流を促進し、異文化を理解し、世界を舞台に活躍できる人材を育成して、多様なルーツを持つ人々との交流・協働によって、教育と研究を通じ国際社会の発展に貢献する。

多様性

人間と学問の多様性を教育・研究の礎として、新しい価値を共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多様な学生と教職員が尊重し合い共生・協働していく場を構築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする。

以上を旨とする横浜国立大学は、透明性の高い組織と適切な運営のもとで、個性ある大学として豊かな知を育む。さらに、都市空間に在りながら、きわだって緑豊かなキャンパスを有する本学に集うすべての学生と教職員は、恵まれた環境を維持しつつ、心身ともに健康な大学生活を営むことを目指す。

平成16年4月1日制定／令和5年3月22日改定
横浜国立大学



Message from the president

目指すべき未来へ 歩を進めるために

皆さまには、日頃より横浜国立大学の教育・研究活動にご理解、ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。この報告書では、皆さまからのご支援の賜物である『横浜国立大学基金』で実施した支援活動をご報告いたしますので、ご一読いただければ幸いです。

今世紀、日本を含む先進諸国は低成長と財政危機、少子高齢化、感染症の拡大、大規模災害、環境問題など多くの困難な課題に直面しています。このような時代であるからこそ、国立大学は、学問の発展と新たな価値の創出、イノベーションの創造に貢献しなければなりません。

本学は、2024年に創基150周年・開学75周年を迎えました。建学以来の歴史の中で育まれてきた「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」の理念（大学憲章）の下に、人文系、社会系、理工系などの多様な専門性を有する教員がOne Campusに集い、社会実践を重視した教育研究を行うとともに、各分野で第一線の学術研究成果

をあげてきました。そして、この先の未来に向けて、一人一人が豊かにその力を発揮し、本学がさらに発展すべく、「多様性」の精神を追加しました。

今後も本学は、国や地域のイノベーション創出の中心的役割を果たしたいと願っています。そのため、多様な学術知・実践知を動員し、産業、地域、市民等の多様なセクターと国内外を問わず、分野を超えてオープンに連携することで、「新たな社会・経済システムの提案」や「イノベーションの創出・科学技術の発展」に資する「知の統合型大学」として「世界水準の研究大学」を目指します。

横浜国立大学が、皆様と目指すべき素晴らしい未来へとともに歩を進めていくために、これからもご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Izuru Umehara

横浜国立大学 学長 梅原出

横浜国立大学基金

横浜国立大学基金は、本学の大学憲章に掲げる、実践性、先進性、開放性、国際性、多様性をより高め、教育・研究環境の向上及び社会貢献活動の推進を支援します。お寄せいただいた寄附金は、上述の目的を達成するために広く活用させていただきますが、その用途を大学にお任せいただける方は、こちらの基金にご寄附をお願い申し上げます。

実施事業例

若手研究者支援（査読付国際ジャーナル論文投稿支援事業）／
T.I.M.E. Associationによるダブルディグリーにおける奨学金事業／ROUTEプロジェクト支援／
ROSEプログラム支援／課外活動支援／学部・学科支援／施設・設備の充実化

研究者インタビュー

中臺 亮介 大学院環境情報研究院 講師



－先生の研究テーマについて教えてください。

私の専門は生態学・生物多様性科学であり、環境DNA（eDNA）解析を用いた水生生物の分布や群集構造の解明に取り組んでいます。環境DNAとは、水などの環境媒体中に存在する生物由来DNAの総体を指し、水を採取・分析することで、生物の在・不在や群集組成を把握できる技術です。生物への影響を最小限に抑えながら、広域の生物相を迅速かつ低コストで把握できることから、生物多様性モニタリングや保全管理の分野で世界的に注目されています。私は、その信頼性向上と社会実装に資する基盤研究を、国内外の研究者と共同で進めています。

－基金による支援事業を活用した研究活動及び成果について教えてください。

2025年度には、本事業により計3件の論文をオープンアクセス（OA）化することができました。なかでも、Ecological Indicators誌に掲載された総説論文

「Spatial dispersal of environmental DNA particles in lentic and marine ecosystems」（Jo, Murakami & Nakadai, 2025）は、京都大学・東北大学との共同研究の成果です。本論文では、湖沼や海洋における環境DNAの空間的拡散に関する既往研究を体系的にレビュー・再解析し、止水域では数十メートル、海洋では数キロメートル規模に拡散することなどを定量的に示しました。

－寄附者の皆様へ感謝のメッセージをお寄せください。

このたびのご支援に心より御礼申し上げます。OA化された本論文は、出版から約1年で既に12回の被引用を得ており、同分野の被引用数上位10%に位置づけられています。これはご支援により世界中の研究者がアクセスできる環境が整った直接的な成果であり、学術的・社会的インパクトの向上を強く実感しております。今後も生物多様性保全に資する研究に邁進してまいります。引き続きご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

研究等支援基金

研究等支援基金は、学生又は不安定な雇用状態にある研究者（ポスドク等）への支援を行います。研究活動や論文刊行に要する費用、学会等への参加費の支援など、未来を担う若手研究者の育成にあたたかいご支援をお願い申し上げます。

実施事業例

博士学生を対象としたワークショップ／
「持続可能なイノベーションを牽引するインクルーシブ・リーダーシップ養成プロジェクト」
（YNU-SPRING事業）学生への研究費補助

学生インタビュー

大学院国際社会科学府／2024年度博士課程後期入学／2022年度博士課程前期入学



－あなたの研究テーマについて教えてください。

私は、防ぐことができる紛争があるという前提にたち、加害行為に至る人々の背景にある被害性に着目し、紛争の予防をかなえる社会的介入のあり方について研究しています。近年の国際情勢において、様々な紛争が勃発し、多くの犠牲者が出ています。いかなる加害行為も決して容認されるべきものではありませんが、その一方で加害者と位置づけられる人々の中には、過去に何らかの精神的暴力を受けた経験を有する場合があります。もちろん、精神的暴力を受けた経験が直接的に加害行為に繋がる訳ではありませんが、適切な問題解決の機会が与えられないことによって生じる当事者への影響は、計り知れないものがあります。

－基金による支援事業を活用した研究活動及び成果について教えてください。

基金による支援事業を活用し、アフリカ・ウガンダで現地調査を行いました。特に内戦の被害が甚大であった

北部のアルア市に赴き、トラウマを抱えた人々がアクセスしてきた心の傷の修復における社会的機会について調査しました。その結果、現地では罪を犯した人々とそうでない人々とで、アクセスしてきた心の傷の修復の機会の質に差があることが明らかになり、いわゆる加害者の中にも被害性が存在することが見えてきました。

－寄附者の皆様へ感謝のメッセージをお願いします。

いつもご支援を賜り誠にありがとうございます。本研究は、みなさまからのご寄附がなければ成立しないものです。経済状況などにかかわらず世界中の全ての人々が生きる上での心の傷を修復できる社会的方策を追求することで、長期的に新たな紛争の勃発を防ぐ、大変重要な研究であると考えております。将来は本研究を継続するとともに、教育者として社会に貢献していきたいと考えております。みなさまから頂いた研究や学びの機会を活かし、精一杯社会貢献出来るように精進してまいります。



学生修学支援基金

学生修学支援基金は、経済的な理由により修学に困難がある学生に対し、勉学・研究に集中できるように、授業料・入学料等の全部又は一部免除や奨学金の支援をします。意欲と能力ある学生が、修学をあきらめてしまうことなく希望の教育を受け、研究が続けられますよう、皆様のあたたかいご支援をお願い申し上げます。

実施事業例

新入生スタートアップ支援金 / YNU大澤奨学金 / YNU竹井准子記念奨学金 /
八幡ねじ・鈴木建吾奨学金

感謝のメッセージ

経済学部 / 2023年度入学



この度は奨学金によるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。
入学後に家計の急変があり経済的な不安を抱えておりましたが、温かいご支援によりその不安が大きく軽減され、一層勉学に集中できております。
現在は主に国際金融を学び、円安の要因や日本の生産性と為替の関係性について関心を持って学習を進めております。また、5年間で学士号と修士号の取得が可能なEcon-ROUTEという制度を活用し、大学院への進学を考えております。大学院で経済学の専門性や分析能力を高め、より正確な情報を発信できるような人材になることが目標です。大学院の進学を決意することが出来たのも、本奨学金のご支援のお陰です。将来活躍できる人材になれるように今後も努力を重ねてまいります。改めまして、この度のご支援に深く御礼申し上げます。

感謝のメッセージ

都市科学部 / 2024年度入学



今年度も奨学生として採用いただき、誠にありがとうございます。
ご支援のおかげで無事に3年生に進級することができ、研究室配属を控えた現在も充実した大学生活を送ることができています。
学部1年生の秋ごろから体調を崩し、アルバイトの継続も困難になってしまったなかで、この奨学金の存在が精神的にも経済的にも大きな支えとなっています。この場をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。
今後は、今秋配属される研究室において自分の関心分野を深く掘り下げ、主体的に研究に取り組んでいきたいと考えています。また、教員免許取得に向けて、教育実習のための準備にも力を入れてまいります。学科の勉強と教員免許取得のための勉強の両立は容易ではありませんが、ご支援いただいていることへの感謝の気持ちを忘れず、一層努力を重ねてまいります。



国際交流基金

国際交流基金は、世界を舞台に活躍できるコミュニケーション能力を持ち、異文化を理解する人材を育成するとともに、留学生・研究者の受け入れ・派遣を促進し、教育と研究を通じた諸外国との交流の拡大を目標とした事業を行っています。皆様のあたたかいご支援をお願い申し上げます。

実施事業例

私費外国人留学生奨学金 / 国際会議等出席・海外調査等奨励金 / 交換留学派遣生奨学金 /
海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）採択プログラムに対する経費支援 /
ショートビジット奨学金 / 外国人研究者等招へい事業

感謝のメッセージ

大学院理工学府 / 2025年度入学



この度は奨学金によるご支援を賜りまして誠にありがとうございました。
上海交通大学への短期留学は、日本、中国、タイ、バングラデシュなど多様な背景を持つ参加者との交流を通して、互いに英語を母語としない中で意思疎通を図る実践的なコミュニケーションスキルを身につけることができた、非常に有意義な経験となりました。
また、世界的にも著名な教授陣や学生と直接交流できたことは大きな刺激となり、充実した授業や研究室見学を通して、専攻である船舶海洋工学の分野において日本では見られないユニークな研究に触れ、自身の視野を大きく広げることができました。さらに、現地での実体験を通して、特定の国や文化に対して無意識に抱いていた偏見が払拭されるなど、内面的な成長も実感しています。
このような貴重な学びと成長の機会を得られたのは、奨学金によるご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。本プログラムで得た船舶海洋工学に関する新たな知見や異文化理解力を将来の糧とし、広く社会に貢献してまいります。

感謝のメッセージ

大学院理工学府 / 2025年度入学



この度は、横浜国立大学基金による奨学金の温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。私は上海交通大学での研修プログラムに参加し、船舶海洋工学の最先端に触れる貴重な機会を得ました。
現地では、世界有数の規模を誇る実験施設の見学に加え、この分野の世界的権威である教授陣による講義を受け、深い感銘を受けました。また、多様な国籍の学生たちとの討論やグループ発表、そして自身の研究成果のプレゼンテーションを通して、国境を越えた視点の違いや、学問に対する真摯な姿勢を肌で感じることができました。この研修で得た多様性と最先端の知見は、私にとって大きな財産となりました。今後この経験を糧に、専攻分野のさらなる研究に邁進し、社会に貢献できる技術者を目指してまいります。貴重な学びの機会をご支援くださった寄附者の皆様に、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

① YNU 新湘南共創キャンパスの創設事業

健康やまちづくりについての ワークショップ「てくてくてっく」を開催

藤沢市村岡地区をフィールドとして、歩きながら健康や暮らしやすいまちについて考えるワークショップ「てくてくてっく」を5回開催しました。今年度は、当日イベント運営する「てくてくテクニシャン」として昨年度の参加者3名が新たに加わるなど、地域住民と大学、地域住民同士の信頼関係に基づいたコミュニティが形成されており、市民との共創の場になりつつあります。



新湘南ウェルビーイング フェスタ2025へ出展 11月29日

新湘南エリア発のヘルスイノベーションをテーマにしたイベント「新湘南ウェルビーイングフェスタ2025」が開催され、「ウェルビーイングってなんだろう」をテーマとした2種のワークショップを主催し、8つの研究室が出展しました。イベント全体で1,500名以上が来場し、本学主催のワークショップには136名が参加しました。



メ
ッ
セ
ー
ジ

基金を活用させていただくことで、2025年度では新湘南共創キャンパスを中核サイトとした地域連携活動を飛躍的に発展させることができ、実践的な学生教育、市民対話ワークショップ、ビジネススクール、子供理教室など多彩な取り組みを実施することができました。2026年度もさらに充実した全学的な活動を展開いたしますので、引き続きご支援のほどお願いいたします。

下野 誠通 総合学術高等研究院 次世代ヘルステクノロジー研究センター長 / 大学院工学研究院 教授

② 台風科学技術研究センター支援事業 ～横浜国大の知を統合して、台風を「恵み」に～

横浜国立大学として初めて航空機による 台風内部への直接観測飛行を敢行 (3日連続)、従来“ない”とされていた 過冷却水滴の観測に成功し、 台風制御の可能性を示しました

令和7年 10月 台風22号



1.離陸前の(左)筆保センター長(右)坪木副センター長/2.航空機から見た台風の目

大阪・関西万博にて研究展示を実施 令和7年 8月20日～31日

「台風を知り、未来を動かす」をテーマに、Moon Shot Parkにおいて12日間にわたりフューチャー・ライブ・エクスペリエンスの研究展示を実施しました。AI ロボットや映像技術を活用し、台風研究の魅力と社会的意義を楽しくわかりやすく発信するとともに、若者主体の展示を通じて国内外の関心を高めました。来場者から生の声を集め、未来の仲間と繋がる貴重な機会となりました。(来場者数:12,238人)



台風戦略シミュレーターを説明する学生

メ
ッ
セ
ー
ジ

台風災害から国民の生命・財産を守るため、航空機による台風内部への直接観測で得た各種データをもとに、気象庁と連携して台風メカニズムの解明に取り組んでいます。台風の脅威を恵みへと変える挑戦に向け、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

筆保 弘徳 総合学術高等研究院 台風科学技術研究センター長 / 教育学部 教授

③ 学生支援事業

スター研究者養成事業(高度な研究者を養成する奨励金の創設) / 体育施設改修事業

「カナデン奨学金」を設立しました

世界で活躍するイノベーション創出の中核を目指す、先鋭的な若手研究者を養成するため、次世代を担う向上心に満ちた学業優秀な理系大学院生(博士課程前期課程及び修士課程)を支援することを目的とし、株式会社カナデン様の多大なご寄附により「カナデン奨学金」を設立しました。

【奨学金の概要】

名称: カナデン奨学金 | 採用人数: 年間2名(予定)
支給期間: 2年間(修業年限) | 支給金額: 月額50,000円
対象者: 理工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府の博士課程前期1年次又は先進実践学環修士課程1年次に在学し、かつ理系分野を専攻する学生



左から、梅原学長、株式会社カナデン 本橋伸幸代表取締役社長
※役職は感謝状贈呈当時

④ 各学部等の周年記念事業

教育学部創基150周年記念事業

みはるかす碑のライトアップを行いました

教育学部では150周年を記念し、学生歌「みはるかす」に込められた想いを形にするために「みはるかす碑」を建立し(2024年11月)、その想いを未来へ残すため、ライトアップを実施しました(2026年3月)。
また、ご寄附の一部は、実践的・先進的な資質・能力を備えた教員を育成するための学修環境整備に活用いたします。



社会科学系創立100周年記念事業

経済学部・経営学部学生に対する 修学支援事業

5年一貫教育で大学院への進学が決定した経済学部・経営学部学生の該当者3名(2026年4月入学)に対して、横浜高商創立100周年記念奨学金(Next100奨学金)を支給しました。修学支援事業は今後継続してまいります。

修学支援事業奨学金受給者の 修士論文等タイトル一覧 (2026年3月末修了:6名)

- 乗算型スコアリングオークションの理論研究
- 組織の権限委譲と事業部のモチベーション
- 小国開放経済New Keynesianモデルにおける財政赤字の自己資金化分析
- 日本の世代間モビリティの変化について
近年出生コホートのデータに基づく再検証
- 日本における培養肉産業のサプライチェーンの実態と特徴
～他産業との比較を用いて～
- 日本におけるマテリアルフローコスト会計と原価計算の比較研究

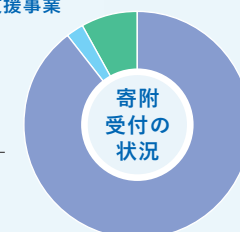
寄附受付の状況 (2026年3月末日時点)

創基150周年・開学75周年記念事業累計 2,228件 / 315,324,795円

- YNU新湘南共創キャンパスの創設事業・台風科学技術研究センター支援事業・学生支援事業 1,759件 / 282,756,368円
- 教育学部創基150周年記念事業 191件 / 7,185,666円
- 社会科学系創立100周年記念事業 278件 / 25,382,761円

【募集期間】2023年4月～2028年3月31日 【目標額】総額5億円

皆様からの温かいご支援とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。
今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



各事業の詳細につきましては、横浜国立大学創基150周年・開学75周年記念募金事業の専用サイトをご覧ください



MESSAGE 01

－学生時代、特に印象に残っている授業や学びの経験はありますか

在学中は、多様なカリキュラムの中で興味を持ったテーマについて、工学部図書館に足を運び、納得がいくまで調べることを大切にしていました。この姿勢は、社会に出た今も変わっていません。特に印象に残っているのが、有機化学の佐藤先生の授業です。海外の論文が配布され、そこから関連論文を自ら探し、図書館でコピーを取り、夏休みを使って読み込む日々を送りました。受験勉強以上に根を詰めて学んだ経験は、今でも強く心に残っています。学生一人ひとり異なるテーマに向き合う厳しくも充実した学びの環境が、現在の自分の原点になっていると感じています。

－経営者として大切にしてきた価値観とは

組織のトップに立ち、リーダーとして舵を取る中で、私を支えてきたのは「ロマン」と「ビジョン」でした。その先にどのような世界を描き、どのような存在でありたいのかを常に考えることが、困難な局面を乗り越える力になってきたと思います。また、従業員やその家族、取引先など、関わるすべてのステークホルダーに対して、何らかの形で役に立ちたいという思いがありました。自分にとっての幸せとは何かを考え続ける中で、他者の幸せに寄与できることこそが、自身の喜びにつながるのだと感じるようになりました。これからの学生の皆さんにも、学びを通じて「人のために役立つこと

が、自分の幸せにつながる」という実感を、ぜひ体験してほしいと思います。

－大学に期待すること、また現在の学生たちへのメッセージをお願いします

学生の皆さんには、何よりもしっかりと勉強してほしいと思います。専門分野はもちろん、それ以外の分野にも関心を広げ、ぜひ多くの本を読んでください。年代や分野を超えた読書は、視野を大きく広げてくれます。文系・理系を問わず、リベラルアーツはあらゆる場面で力になります。私自身、韓国について学び、言語や文化を理解したことが、行き詰まった仕事を解きほぐすきっかけになった経験があります。英語と同様に、一つひとつの積み重ねが、将来必ず自分を支える力になるはずです。



山田 勝 様

1969年(昭和44年)
工学部卒
株式会社SHOUEI
元代表取締役社長・会長

MESSAGE 02

－学生時代の思い出についてお聞かせください

「白亜の殿堂」と称された経済学部棟がそびえる清水ヶ丘で、私は後半の学生生活を過ごしました。当時の本学部には、既に学界で名声を確立していた錚々たる教授陣が揃っており、私たち学生も、その講義に真剣に耳を傾けていたことを覚えています。私生活では、週に二度の家庭教師のアルバイトや、「グリークラブ」での練習・発表会に熱中していました。中でも特に忘れがたいのは、1960年代半ばに全国の大学で巻き起こった『日米安保闘争』です。本学も例外ではなく、自分自身も十分な知識や理解があるとは言えないまま、その運動に加わったものでした。あの頃の記憶は、今も時折、ほろ苦い思い出として胸によみがえってきます。

－横国ならではの魅力とはどんなところでしょうか

私は当初、都内の某私大に入学しましたが、大人数のマンモス授業に馴染めず夏休み前に退学し、翌年本学に入学しました。本学の魅力は、何と言っても少人数での丁寧で質の高い授業にあると考えます。現在も多少の違いはあれ、良き伝統として受け継がれているのではないのでしょうか。特に私の場合、財政学ゼミの故・井手教授には、卒論テーマの選定・指導に限らず私生活でもご指導や助言をいただき、今でも感謝しております。卒業後の同級生・ゼミナリストの結束の固さも、小規模ならではの利点の一つで、他大

学の友人達からも羨ましがられています。

－大学とのつながりを改めて感じられた瞬間があれば教えてください

今回、創基150周年事業に加え、「ときわの森プロジェクト」にも些少ながら協力させていただきました。その一環として、第一食堂近くの「大島桜」に私のメッセージ入りプレートを設置していただきました。この大島桜は、「ソメイヨシノ」の親木にあたる品種で、桜餅の葉としても親しまれている樹木です。その樹に自分の名を記したプレートが設けられたことで、まるで分身がそこに根づいたような気がし、「これからもよろしく」と声を掛けたいような感慨と親近感を覚えました。今後も常盤台を訪れる際には、この桜に会いに行き、「元気か」と声をかけたいと思っています。



酒井 恒介 様

1962年(昭和37年)
経済学部卒

MESSAGE 03

－学生生活は、どのようなものでしたか

バブル経済の時代、サークルにも所属し大学生活を謳歌しましたが、後半は卒業研究が面白くなってきて、研究室で過ごす時間が増えていきました。それから2年次修了後には休学してロサンゼルスに1年間留学も経験しました。復学後、すでに研究室に入っていた友人が、「面白いから来てみなよ。」と君嶋義英先生の研究室に誘ってくれました。当時、君嶋先生は超伝導の研究をしていましたが、学生の関心にも理解があり、コンピューターの勉強がしたい私に自由に研究させてくれました。当時はマッキントッシュが最先端のコンピューターで、統計学のソフトを使いデータ解析に夢中になり、アルバイト後も大学に戻り夜遅くまで研究をする日々でした。裏門から木のトンネルを抜けると見えてくる、研究室だけが明るく浮かぶ夜のキャンパス風景は、今でも強く印象に残っています。

－梅原学長と学生時代に接点があったと伺いましたが

梅原先生は、私が在籍していた研究室に新しく着任された助手の先生で、研究室では“お兄さん研究者”的な存在でした。私がコンピューターを使ったデータ解析に熱中していたこともあって、通常入れない電算センターに特別に入れるよう、先生が申請を通してくださったんです。高性能なPCを使い、アカデミックな研究員になったようでとても誇らしい気持ちでした。後に先生がその研究室の後任となり、現在は学長を務めておられると聞いた時は驚きました。卒業後、私が研究に使っていたマッキントッシュの管理までしてくれていたと知ったときは、感慨

MESSAGE 04

－代表就任までのご経緯についてお聞かせください

卒業後、あずさ監査法人に入所し、会計監査や株式公開支援に7年間携わりました。その後、2013年からの10年間は、プライベート・エクイティファンド（ニューホライズンキャピタル）に在籍し、M&A実務や金融調整、会社の成長支援から事業再生まで幅広い経験をさせていただきました。多くの企業の経営に深く関与する中で、次第に「もっと長期的な視点で経営に関わりたい」という思いが強くなっていくところ、ちょうど、レストラン鎌倉山のオーナーが後継者を探していると相談があり、自ら手を挙げ、経営者になる事を決意しました。

－長瀬様が思う“横国の魅力”とは

多くの学生が在学中からさまざまなことに積極的にチャレンジしていて、学生起業に取り組む人もいれば、最近ではYouTuberとして活躍し注目を集めている学生もいます。こうした自由な発想を大切にしながら、のびのびと自分らしく活動できる雰囲気が、横国の大きな魅力だと感じています。

－最近、横国OBとのご縁があったとお聞きました

最近、長崎五島列島のクラフテッド・ジン「GOTOJIN (ゴトジン)」にハマっています。こちら

深いものがありました。

－ご寄附に込めた思いをお聞かせください

私自身、卒業後も研究室にたびたび顔を出していき、気軽に相談できる関係が続いていました。仕事上で困ったときに、君嶋先生を通じて電気情報工学の先生にご相談させていただいたこともあります。あるとき、君嶋先生から「研究機器が壊れて学生の卒論に支障が出そうだ」と連絡をいただいて、修理に向かったこともありました。社会に出てからも多くのご縁があり、大学にはずっと感謝しています。2020年のコロナ禍で学生が困っているときに、大学への支援を始めました。自分が大学に本当にお世話になってきたので、少しでも恩返しができればという、ごく自然な気持ちです。その後、梅原先生が学長になられて、より親しみを感じるようになり、大学を“自分ごと”として考えられるようになったことも継続的な寄附につながっていると思います。

－最後に学生へのメッセージをお願いします

私が横浜国立大学に行って良かったと心から思えるのは、素晴らしい環境と、それを支えてくれた方々がいたからです。その感謝の気持ちから、自分も今の学生たちのために何かお手伝いをしたいと思うようになりました。社会に出てからも、横国出身者同士って何か通じ合うものがあるんですね。そういう「横国らしさ」というのが、大学の文化なんだと思います。それを学生の皆さんにも意識してもらって、次の世代に感謝のリレーをつないでいってくれたらとても嬉しいです。

は、当社商品と同じ時期に創基150周年記念事業の返礼品にもなったもので、本店でも数量限定で取り扱っていました。個人的にとても気に入ったので、消費者の一人として感想を伝えたくなり、WEBサイトから連絡したところ、「GOTOJIN」代表の門田さん（経済学部OB）とお会いする機会をいただきました。私たちが「横国OB」という共通点を持っていたことがご縁となり、「レストラン鎌倉山」と「GOTOJIN」のコラボレーションへも発展しました。社会に出ると横国の卒業生に出会う機会はそう多くはありません。だからこそ、こうした出会いには特別な感動があり、横国OBであることの素晴らしさをあらためて感じています。

－横国生へのメッセージをお願いします

学生の皆さんはとても優秀で、多くの可能性を秘めています。その潜在的な力は、学問や研究だけでなく、社会のさまざまな分野で大きく羽ばたくことができます。だからこそ、皆さんには自分の可能性に自ら制限をかけたり、「自分には無理かもしれない」と遠慮したりすることなく、どんなことにも積極的に挑戦してほしいと願っています。



伊賀 亨治 様

株式会社ソフェル
代表取締役社長
1993年(平成5年)
工学部 物質工学科卒



長瀬 裕介 様

株式会社レストラン鎌倉山
代表取締役 公認会計士
2003年(平成15年)
経済学部卒

2025年度 ご寄附の受入実績

2025年度の
横浜国立大学基金
へのご寄附総額は、

984件
86,555,167円に達しました。

横浜国立大学基金の活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
皆様からのご寄附は、大学の発展のために大切に活用させていただきます。

収支報告

収入計

86,555,167円

内 訳

横浜国立大学基金	61,509,667 円
学生修学支援基金	21,652,000 円
研究等支援基金	3,181,500 円
国際交流基金	212,000 円

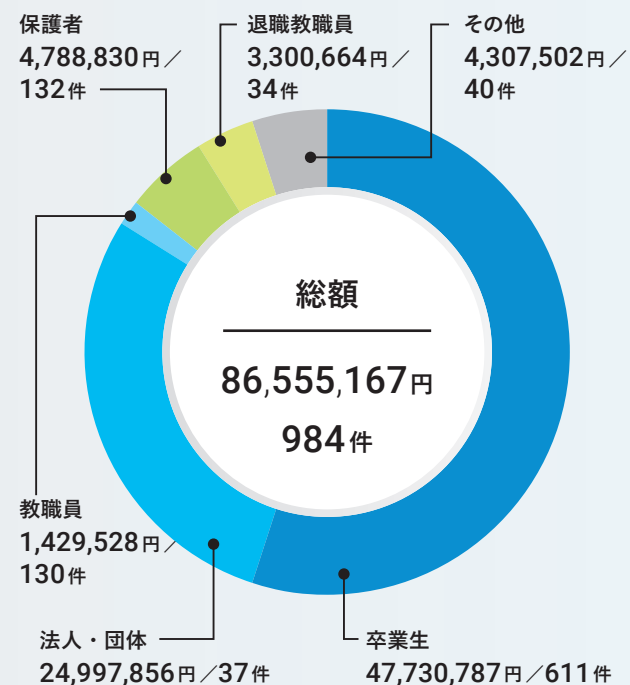
支出計

99,581,635 円

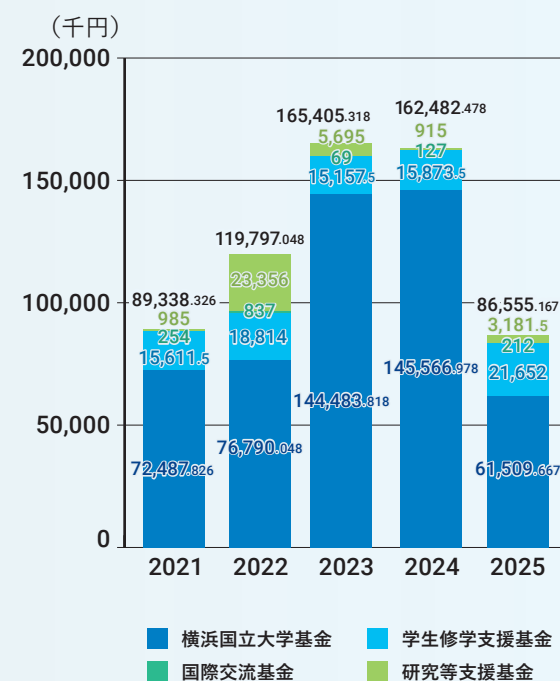
内 訳

横浜国立大学基金	64,671,000 円
学生修学支援基金	21,731,200 円
研究等支援基金	7,342,531 円
国際交流基金	5,836,904 円

寄附受入実績



ご寄附受入額の推移



※創基150周年・開学75周年記念募金事業へのご寄附は横浜国立大学基金に含めて集計しております。

2025年度 支援事業一覧

横浜国立大学基金

支援事業名称	主な使途	執行額
全学共通事業	学食割引による食支援、ダブルディグリー奨学事業、基金運営費など	9,447,000 円
	オープンアクセス支援、ROUTEプロジェクト支援、ROSEプログラム支援	30,058,000 円
	各学部による独自の取組に関する支援	1,072,000 円
	ヨット部、アメフト部、ハンドボール部、ロボット製作サークル等、学生課外活動の支援	9,601,000 円
	周年記念事業(はまぎんYNUベンチャー支援基金、カナデン奨学金、新湘南ウェルビーイングコンソーシアム、みはるかす碑ライトアップ工事、社会科学系修学支援金等)	14,493,000 円

学生修学支援基金

支援事業名称	主な使途	執行額
新入生スタートアップ支援金	奨学金給付事業	2,700,000 円
YNU大澤奨学金	奨学金給付事業	10,200,000 円
YNU竹井准子記念奨学金	奨学金給付事業	5,231,200 円
八幡ねじ・鈴木建吾奨学金	奨学金給付事業	3,600,000 円

研究等支援基金

支援事業名称	主な使途	執行額
YNU-SPRING事業	博士課程後期学生を対象とした研究費補助	7,342,531 円

国際交流基金

支援事業名称	主な使途	執行額
研究者招へい事業	外国人研究者等招へい	908,704 円
国際学術交流奨励事業	私費外国人留学生奨学金、国際会議等出席・海外調査研究等	3,425,000 円
国際交流推進事業	海外留学支援制度等	903,200 円
Y60奨学金事業	ショートビジット奨学金	600,000 円

TOPICS

学生等に対する食支援を行いました

日本学生支援機構が実施する「物価高に対する食の支援事業」を活用し、設定価格との差額に横浜国立大学基金を充てた、学生への食支援を行いました。令和7年11月4日(火)～11月21日(金)の期間、価格設定700円程度の定食・丼セットを300円で提供しました。一日400食限定で提供し、全食完売となりました。



学生の声



栄養バランスの良い食事を安く食べることができて大変助かりました。



経済的に苦しい中、とてもありがたい取り組みでした。

「ヨット部『常勝国大』復活プロジェクト」が当初の目標額を達成しました

2025年3月から募集を開始した「ヨット部『常勝国大』復活プロジェクト」が当初の目標額である300万円を達成いたしました。多くの皆様からのご支援に心より感謝申し上げます。次の目標に向けて引き続きプロジェクトは継続してまいります。

新規プロジェクトへのご寄附はこちら



「地域課題実習「応援団」募集！」が始まりました

「地域課題実習」は、20年間にわたり学生が地域課題の解決に取り組んできた実践型プログラムです。現在は年間30以上のプロジェクトに約450名が参加し、持続可能なまちづくりなどに貢献しており、その活動を支援するためのご寄附を募ります。

事業概要

募集期間 | 2025年9月12日～2027年9月11日

目標額 | 300万円

ご寄附の用途 | 地域課題実習、地域交流科目に関わる事業・教材開発事業・海外研修事業



このプロジェクトへのご寄附はこちら



「Robo+ism 学生ロボコンプロジェクト」が始まりました

Robo+ismはNHK学生ロボコン優勝を目指すサークルで、限られた予算でロボット製作を行っていますが、技術高度化に伴う費用増で資金不足が深刻化しています。当プロジェクトでは再び大会で結果を残すために皆様からのご支援を募ります。

事業概要

募集期間 | 2025年10月31日～2027年6月30日

目標額 | 200万円

ご寄附の用途 | ロボット製作費用



このプロジェクトへのご寄附はこちら



ご寄附の申込方法

ご寄附のお申込はこちら



横浜国立大学基金



大学基金WEBサイトより、クレジットカード決済、銀行振込(ATM・ネットバンキング)によるご寄附のお申込をいただけます。画面右上、オレンジ色の『寄附する』ボタンをクリックし、注意事項をご確認の上、必要事項のご入力をお願いいたします。

こちらをクリックしてお手続きを進めてください



ご寄附の払い込み方法



クレジットカード



継続的なご寄附(毎月・年2回・年1回の自動引き落とし)もお申込いただけます。

※12月16日以降にお申込みいただいたクレジットカードによるご寄附の領収書は、翌年の日付で発行され、寄附金控除も翌年の対象となりますのでご注意ください。



金融機関窓口、ATM、ネットバンキング

同封の、専用の払込取扱票に必要事項をご記入いただき金融機関窓口・ATMでお振り込みください。ネットバンキングからのお振り込みにつきましては、大学基金WEBサイトよりお申し込み手続き後、自動送信されるメールに記載の指定口座(ゆうちょ銀行、横浜銀行、三菱UFJ銀行のいずれか)にお振り込みください。お振込みの際、名義人欄にお名前と「受付番号」をご入力ください。

リサイクル募金によるご寄附

本・DVD・ゲーム等のリサイクル品を活用することで、横浜国立大学の教育・研究を支援するプロジェクトです。

ご寄附のお申込はこちら



遺贈・相続によるご寄附

大学基金では、遺贈、相続によるご寄附をお申込みいただけます。遺贈(いぞう)とは、遺言書により特定の個人や団体等にご自身の財産を遺すことをいいます。

「残った財産を活用して社会への恩返しをしたい」「未来を担う次世代の人たちの為に役立ちたい」

皆様の大切な想いを、これからの世界を担う教育研究活動を通して未来へとつなげます。

遺言書の作成を通じて、ご自身の意志・想いを反映させることができます。さらに、横浜国立大学に財産を遺贈していただいた場合、当該遺贈財産は相続税の非課税資産となり、相続税を軽減することができます。また、一定額以上の遺贈をいただいた場合、ご相談の上、お名前などの冠をつけた奨学金制度などを設置することも可能です。遺贈をご予定の資産については、お受け入れの可否を事前に確認させていただきますので、本学への遺贈をご検討の際は、あらかじめご相談ください。

本学と協定を結んでいる銀行・信託銀行

三井住友信託銀行／三菱UFJ信託銀行／りそな銀行